支援ソフト使い英語授業始まる

精華・東光小

「聞く」「話す」の機能も備えた英語学習支援ソフトの入った電子辞書を使う国際理解教育の授業が、精華町の東光小学校で始まった。システムを開発した国際電気通信基礎技術研究所（ＡＴＲ）の関連会社と機器メーカーのシャープが協力。５年生４クラスの児童が14、15日に２時限ずつ取り組んだ。

このソフトには英語を母国語とする38人の音声が入っているほか、利用者の発音から母音や子音、アクセントを分析し、１００点満点で点数を表示する機能などがある。ＲとＬの音の聞き分けや発音の練習もできる。関係者によると、公立小で電子辞書を使う英語教育をするところはほとんどないという。

子どもたちは使い方を学んだ後、電子辞書に向かった。イヤホンマイクを使い、システムを開発したＡＴＲ関連会社の担当者の指導でタッチペンで画面を操作。リンゴやオレンジなど果物や野菜から発音やつづりなどを学んでいった。川東瑞綺さん(11)は「高い音と低い音の違いがよくわかり、自分でも発音しやすかった」と話した。同小では５年生が２月までに計８時限、この授業に取り組むという。（横川修）

電子辞書を使って英語を学ぶ子どもたち＝精華町光台７丁目

© 朝日新聞社　無断複製転載を禁じます。
すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。